



神奈川県東ロータリークラブ

KANAGAWA EAST ROTARY CLUB

DISTRICT 2590/CHARTERED MAY 29-1976/WEEKLY BULLETIN

2014-2015年度 R | 会長 ゲイリー C.K. ホアン



第2590地区 ガバナー
大野 清一

- 会 長 山田 正憲
- 会長エレクト 江森 国一
- 副 会 長 天野 公史
- 副 会 長 鴻 義久
- 幹 事 植田 清司
- 副 幹 事 朝日 達夫
- 会 計 渡 邊 淳
- 副 会 計 白井 康夫
- S A A 小山市 康
- 副 S A A 長井 章
- 副 S A A 青柳 紀
- クラブ会報 竹山 洋



写真提供 小池将夫会員

事務局 ホテルキャメロットジャパン内 〒220-0004 横浜市西区北幸 1-11-3
TEL: 045-314-3900 FAX: 045-314-3555

例会日 毎週金曜日 0:30 ~ 1:30 PM (第5金曜日 6:00 PM)

例会場 ホテルキャメロットジャパン

創立記念日 昭和51年5月29日

URL <http://www.kanagawahigashi.com/>

E-mail kerc@beach.ocn.ne.jp

2014-2015年度 第3週報 No. 1844 2014年(平成26年) 7月18日 第1844回例会記録 7月25日発行

司 会 朝日 達夫 副幹事

誕生日祝 天野 公史 会員 (7月22日)

点 鐘 山田 正憲 会長

斉 唱 「それでこそロータリー」

四つのテスト 角田 伯雄 職業奉仕委員長
(第1例会のみ)

ビジター紹介 神奈川県 R.C 金野 克佐 様



本日〈7月25日〉のプログラム

- ◆ 斉 唱 「手に手つないで」
- ◆ 献 立 エビス鯛のポワレ
- ◆ 卓 話 新年度挨拶

広報・IT、R情報、R財団、米山、戦略、40周年記念

<< 本日のBGM

「ヨハン・シュトラウスI世: パガニーニ風ワルツ Op. 11 外」>>

会長報告

山田 正憲 会長

・7月度定例理事会報告

幹事報告

植田 清司 幹事

・先週に引き続き、会報用ファイルを受付に置いておりますのでお持ち帰りください。

出席報告

西山 潔 出席委員長

会員総数	56名	(34+22)名	
出席会員数	41名	(30+11)名	
出席率	91.11%		
ゲスト	0名	ビジター	1名
前回補正後	90.00%	前々回補正後	94.00%

スマイルボックス

青柳 紀 副SAA

神奈川R.C 金野克佐様 本日もお世話になります。

天野公史君 ①誕生日祝い、ありがとうございます。当クラブ平均年齢62.65歳に向け、邁進中。②ゴルフ同好会参加の皆様、暑い中お疲れ様でした。河野P.P、ご馳走様でした。

山田正憲君 グーグル・ストリートビューの車の写真を撮ったら自転車に乗っている自分がアップされていました。

青柳 紀君 ①23年振りに赤いタスキで緊張しています。②田口さん、先日はありがとうございました。お蔭様で大変お金持ちになれそうです！

澁谷高弘君 ①山田会長、植田幹事の無事な航海をお祈りしています。②山本先生、先日は大変お世話になりました。

月山 勇君 先日のゴルフコンペ参加の皆様、暑い最中のプレー、お疲れ様でした。赤堀さん、優勝おめでとう。昨年度より大活躍、目立ちすぎ・・・。それにしても長井さん、またまたB.B・・・どうしましたか？

吉田隆男君 蒸し暑く、寝不足気味で頭がポットしています。

河野明光君 赤いタスキの似合う青柳さん、頑張ってください。珍しく品性があるネ！

植田清司君 先日の新会員歓迎会、親睦活動委員会の皆様、お疲れ様でした。

江森国一君 先日のゴルフコンペでは、幹事の加藤さん、須永さん、お世話になりました。暑かったですね。へろへろでした。

角田伯雄君 新入会員歓迎会、李君送迎参加の皆さん、お疲れ様でした。

田中龍太郎君 15日のゴルフコンペご参加の皆様、お疲れ様でした。加藤さん、ありがとうございます。

茂木知子さん ～違う～平和プラザホテルを目指していましたが、

方向がわからなくなりました。仕方がなく、タクシーを拾いました。ドライバーさんは快く乗せてくれました。そして、なまりの残る口調で、「ホテルっていうと高い建物を想像しちゃうよね。でも、都会は建物がみんな高いからわからなくなるんだよ」と私に言いました。「ちがう！私は生まれも育ちも横浜だ！！」と、心の中で叫びました。

赤堀和人君 先日のゴルフコンペで優勝させて頂いた赤堀です。これも13位の山本登先生のお力添えのお蔭です。

竹山 洋君 ①ゴルフ会出席の皆様、お疲れ様でした。もう少し練習していきます。②本日、会報委員会を3Fにて開催します。よろしくお祈りします。

但野真実子さん 歓迎会では遅刻してしまい、申し訳ありません。2次会ではご馳走になり、ありがとうございます。

岡部雄一郎君 ゴルフ、お疲れ様でした。同じ組で回った赤堀さん、友添さん、森永さん、ありがとうございます。赤堀さん、優勝おめでとうございます。

大河原理様 先日は、歓迎会にお招き頂き、ありがとうございます。

ゴルフ同好会 先日の同好会ゴルフコンペ参加の皆様、暑い中お疲れ様でした。当日の残金をニコニコへ。赤堀さん、優勝おめでとう！（加藤仁昭）

7月18日	19件	63,080円
本年度累計		206,580円

卓 話

「新年度挨拶」

◆出席委員会 委員長 西山 潔



今年度、山田正憲会長の下、出席委員長を仰せつかりました西山です。副委員長にはベテランの青柳紀会員、委員には若手のホープ

保坂会員、温厚な須永会員と、すばらしいメンバーを擁して今年度出席委員会を執行して参りたいと考えております。

R I 会長、C. K. ホアン会長の本年度テーマ「ロータリーに輝きを」を実現する為には会員皆様の力が必要であります。それにはまず例会に出席する事が必要不可欠であります。出席することにより新しい出会いがあり、その中で友情を育みさらに閃きも生まれて来るはずで、それにより輝きを増した奉仕活動が可能であろうと私は感じます。その様に行われた奉仕活動の後には必ず会員の皆様のすばらしい笑顔が溢れるに違いありません。それはまさに今年度の山田会長の目指すテーマ「笑顔で奉仕、奉仕で笑顔」に合致して参ります。笑顔の溢れるクラブは気持ちがよく、明るく楽しい雰囲気になり活動も活発になることでしょう。

そこで出席委員会では各種会合、地区大会、インターシティミーティング、地区協議会、地区の諸会合、例会、クラブ協議会、クラブフォーラム、クラブ行事、国際大会等への参加を促すとともに、例会に出席出来ない会員を例会に誘い、出席しやすい環境を作り、出席率の向上を図りたいと思います。また、メイクアップの為のサポートや情報提供を細かく行いたいと考えております。

そして最近気がかりの点にクラブ協議会、クラブフォーラムへの出席が少ないことが取り上げられています。

今後これらの会に必ず全員参加して頂ける様に周知徹底して参りたいと思います。

また、出席できない会員には近況報告などで会員の皆様に現況をお知らせ頂きたいと考えております。

今年一年間、会員皆様の御指導、御協力をお願い致します。

◆職業分類・会員選考委員会 委員長 吉田 隆男



職業分類・会員選考委員会委員長を拝命しました吉田隆男です。副委員長は 山崎会員、委員は岩澤会員、澁谷会員、吉橋会員です。

職業分類・会員選考委員会は、クラブ細則第10条・第2節・(b)により、新年度に入り次第早めに委員会を開催し、地域社会の職業分類調査を行います。その調査を踏まえ、充填未充填職業分類業を作成致します。

国際ロータリー定款によりますと、私共のクラブの様に会員数が

51名以上のクラブの場合、同一職業分類に属する正会員がクラブ正会員の10パーセントを超えない限り、その職業分類の下に正会員を選出することができるとなっていますが、バランスのとれた会員構成とすることが求められていることを忘れてはいけないと思います。

次に会員選考にあたっては、会員に推薦された全ての者を個人的な面から、次のことなどを踏まえて検討致します。

1. 有益な事業や専門職務の所有者、共同経営者、法人会員、支配人のいずれかであるかどうか。
2. 専門職務あるいは地方代理店や支店において、管理職を務め、重要な地位にあるかどうか。
3. 上記1, 2の地位から退職した人であるかどうか。
4. 地域社会のリーダーであるかどうか。
5. 子どもの世話または配偶者の仕事の手伝いのために仕事を中断した人、または同じ理由の為仕事をすることが無い人であるかどうか。（これにより女性の主婦も入会OK）

これら基本的なこと以外に、

- ①善良な成人であり、地域社会で評判の良い人かどうか。
- ②例会にきちんと出席できるか否か。
- ③心身ともに健康で社交性に欠けないかどうか。

などを本人と面談の上、確認させて頂きます。そしてロータリーを自己鍛錬の場として活動し、模範となるロータリーアンに近づく可能性がある、将来性のある若手の人も選考することが、クラブの活性化のためにも必要だと考えます。

また現在3名の女性会員がおりますが、あらゆる経営の分野で活躍する女性が増えつつある現在、女性会員がさらに推薦されることをお願い致します。

◆クラブ会報委員会 委員長 竹山 洋



本年度、クラブ会報委員長を仰せつかりました竹山です。本年度も会報は紙面による発行とITによる発行の両方で行って参ります。

また、紙面づくりに於いても、各委員会、及び各会員様のご協力のもと“ロータリーライフに興味のある”会報にしたいと考えておりますのでよろしくお願い致します。

なお、当委員会のメンバーは、副委員長には頼りになる田中会員、委員にはフレッシュな保坂会員、但野会員となっており、おおいに期待しております。

最後に皆様のご協力のもと、一年間よろしくお願い致します。

◆親睦活動委員会 委員長 金森 欣一



今年度の親睦活動委員会の委員長を務めさせていただきます金森でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

今年度の親睦活動委員会は副委員長に加藤仁昭会員と友添辰哉会員。委員には昨年度入会された5名を含む17名の総勢20名の布陣で、我がクラブに輝きを与えられる様に1年間活動して参ります。

① 例会の受付

例会の受付は、来て頂くビジターやゲスト、来賓、卓話者の方にとって、我がクラブの顔となる大切な場です。受付当番制を継承して丁寧な受付や接待を行います。

また、会員に対しては、夜間例会やその他の行事への出席を促し、出席率の向上を図ります。

② 10月の神奈川区民まつり

社会奉仕委員会や国際奉仕委員会、環境委員会と協力してチャリティ活動を行います。

③ 家族会の開催

会員が活動をする上で、ロータリアンに対して理解を頂いている奥様やご家族の皆様に対しての感謝を表すのには大切な機会です。楽しい企画を用意して暮れの家族会と春の家族会を楽しんで頂ける様に致します。

皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

◆雑誌委員会 委員長 白井 康夫



皆様こんにちは。

本年度、雑誌委員会の委員長を仰せつかりました白井でございます。1年間よろしくお願い致します。

本年度のR Iテーマは「ロータリーに輝きを」、及び当クラブ指針は「笑顔で奉仕、奉仕で笑顔」となっております。当該テーマ及び当クラブ指針のもと頑張りますのでよろしくお願い致します。

さて、本年度の雑誌委員会のメンバーは、副委員長に須永会員、委員には森永会員、但野会員、そして私白井と4人の構成となっております。

「ロータリーの友」にはR Iの情報や全国のロータリーの活動が掲載されております。例年通り、当委員会のメンバーが輪番制でその内容を端的に紹介していきたいと思っております。これにより会員の皆様の関心が高まって頂ければ幸いです。

また、「ロータリーの友」への投稿もここ数年の課題ですので、諸先輩の方々のアドバイスを受けながら掲載して頂けるよう活動していきたいと考えております。

さらに、前委員長の天野会員が昨年度実施された「今月ナンバーワン写真」といった投票形式によるロータリアン誌への関心を喚起する企画など、会員の皆様に少しでも興味をもって頂くための方策を考えていこうと思っております。

どうぞ会員皆様のご支援・ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

◆会員増強委員会 委員長 森永 健

日本のロータリーの会員数はピーク時から33%減少しており、年齢層も向上の一途となっています。

会員減少の理由はロータリー各クラブの運営が膠着化して、望まれる新しい運営が選択できないことが大きな理由になっていると考えられます。これを変化させることは至難の業であり、特に歴史の古いクラブはほぼ不可能と考えられます。

そこで衛星クラブやEクラブ等の新しい形態で、安い例会費、時間帯の工夫、例会開催場所の弾力化を図り、費用や時間的な負担の軽減等の工夫も重要な課題になってきています。

今年度の地区方針では、「会員増強・退会防止により一致結束し、

国際ロータリー2590地区として減少から増強にチームワークで反転攻勢しましょう。」をスローガンにしております。

今期、会員各位にお願いしたいことは、一人でも多くの方にロータリークラブの存在を知らせ、関心をもって頂く一助として、お知り合いの方を例会に招いて頂きたいと考えます。

皆様のご協力を是非ともお願い致します。



ロータリーニュース

「思いやり」を真の支援につなげる

退役軍人のリック・バーンズさん（米国アイオワ州、アトランティック・ロータリークラブ会員）は、2003年から、アフガニスタンやイラクなど混乱期にある国々で支援活動を行ってきました。数々の素晴らしい活動がある一方で、善意を尽くしても時にはプロジェクトが結果的にうまくいかないこともあると話します。

例えばアフガニスタン、アーガハンダブ川溪谷の肥沃な大地で、果実の輸出業者を支援したプロジェクト。冷蔵保管倉庫を建設しましたが、現地は電気供給が不安定であることが後になってわかり、結局、倉庫の維持に莫大な費用がかかってしまいました。

「皆、世界をもっとよい場所にしたいと心から願ってプロジェクトを始めます」とバーンズさん。「しかしプロジェクトの長期的な影響をあらかじめ十分に検討しておかなければ、現状を改善できるどころか、かえって逆効果に」

職業研修センターでも同じような失敗がありました。失業者にスキル研修を行ったものの、最終的に十分な仕事口を見つけることができませんでした。また井戸掘削プロジェクトでは、プロジェクト後の管理計画を立てていなかったために、井戸が荒廃してしまいました。

大きな善意と努力が無駄に終わってしまうのを見て、バーンズさんが設立したのが非営利団体「カラダー・プロジェクト・インターナショナル（Karadah Project International）」です。

「現状を嘆き、不満を漏らすばかりでなく、自分が何か行動を始めなければと思ひ立ちました」

同団体は、アフガニスタンやイラクで、飢餓、貧困、疾病といった切実な問題に取り組む国際協力を支援しています。

パートナーシップの力

バーンズさんが協力の関係づくりを始めたのは、米国陸軍でイラクに駐在していたときから。2008年には、イラクと米国の姉妹都市締結に尽力しました。

その後、バグダッドの歯科大学と米国ネブラスカ州の歯科大学がパートナーシップを結ぶのをサポートし、教授による大学訪問も実現させました。今後は、ロータリーの職業研修チーム（V T T）を結成して関係を発展させることを計画しています。

こうした関係づくりを経てたどり着いたのが、「ヤギの提供プロジェクト」です。このプロジェクトでは村の女性たちにヤギを提供。各家庭は、ミルクを自ら消費することもあれば、売って収入を得ることもできます。また最初に生まれたヤギの子どもはほかの家庭へ提供し、支援の輪を広げていきます。

この手の支援プロジェクトでは、ヘファー・インターナショナル（Heifer International）が有名ですが、バーンズさんが初めて協力をもちかけたときは、イラクとアフガニスタンでは活動を行っていないとの返事を受け、協力に至りませんでした。そこでバーンズさんは独自にアフガニスタン現地の団体をあたり、「Shindand Women Social Foundation（SWSF）」というパートナー団体を見つけることができました。SWSFはヤギの受取手となる女性や家庭の審査を行うほか、プロジェクトを末永く続けられるよう、追加で10頭を購入してヤギの増殖も行っています。さらに、ミルクの加工処理機を購入し、村の男性に頼んで女性たちにもミルクの加工過程を教えてもらい、地元全体の経済発展をめざしています。

プロジェクトの真の成果に注目

バーンズさんは、プロジェクトに投じられた資金額や活動規模のみで成果が測定されるのを幾度となく見てきました。

「何をもって成功とするか、その尺度がずれているように感じました。私の団体はほかと比べてプロセスが遅いかもしれませんが、何より、現地に合った真の成果をもたらす活動に努めています」

またプロジェクトを長期的なものにする為、責任ある運営と写真／報告書／現地視察など客観的なデータの収集を心がけています。

「（アフガニスタンやイラクでの）活動にはいつも多くのリスクが伴います。しかし単にお金を投じるだけではなく、その長期的な成果にこそ注意を払うことで、人びとの生活に真の変化をもたらすことができるのです」

ロータリー・ニュース

ロン・パートン2013-14年度R I 会長、1年を振り返って

2013-14年度国際ロータリー会長（R I 会長）のロン・パートン氏（米国オクラホマ州、ノーマン・ロータリークラブ）は、この1年間、世界各地のロータリー活動を応援するために、50カ国を訪問。その移動距離は800,000km以上に及びます。周囲からビデオ会議などの簡単な方法も勧められましたが、直接会って話をすることを重視し、世界を駆け回りました。

「会長である私が重要なのではなく、会長としての仕事が重要」

「グーグルハンアウト」や「フェイスブック」といったインターネットツールも使用して、積極的にコミュニケーションを行いました。

「ロータリアンの皆さんに“ロータリーを実践し みんなに豊かな人生を”とお願いをしたわけですから、私自身、ロータリーの活動を多くの人に知ってもらえるよう、家族との会話を大切に、地域社会の奉仕プロジェクトを訪れ、多くのクラブで話をし、世界各地のリーダーとお会いしてきました」

第105代R I会長のバートン氏、その任務は重大なものだったと振り返ります。

「ロータリー創設者であるポール・ハリスの足跡を辿ることができたことは、実に名誉なこと」とバートン氏。世界中で、あらゆる社会や文化を背景とするロータリアンに温かく接してもらったことを振り返りつつ、「会長である私が重要なのではなく、会長としての仕事が重要」だと強調します。

R I会長の仕事は、就任する前から始まり、事前に会長年度の計画を立て、各委員会の委員長を選び、国際大会に向けた準備をします。成果に満ちた1年とするには事前の準備が重要だと考えるバートン氏は、地元オクラホマ州の格言に言及しました。

“Where you go in life, whatever job you set out to do, you should always leave the woodpile a little higher than it was when you found it.”

「人生のどんな仕事においても大切なこと、それは、どこに行っても自分が来る前よりも薪の山を少し高くしてから、そこを去るとのこと」

世界中のロータリアンの支えがあったから、歴代のR I会長が積み上げてきた“材木の山”を少し高くすることができたと、バートン氏は述べました。

新しい寄付の取り組み

寄付の推進における成功は、自分にとっての大きな誇りだとバートン氏。世界537ロータリー地区のリーダーに個人的な寄付をお願いし、全員がそのお願ひに応じてくれました。これにより、70万ドルを超える寄付が、ロータリー財団に寄せられました。寄付について考え方を变えることが、この取り組みのポイントだったとバートン氏。

「ロータリー財団は私たちの財団であるということ、そして、より多くの寄付があれば、それだけ多くの生活に変化をもたらせるということ、私たちは考える必要があると思います」

バートン氏からR I会長のタスキを受け取るゲイリー・ホアン2014-15年度会長も、この寄付の取り組みを継続しており、すでに、同年度の地区リーダーから100万ドルもの寄付が寄せられています。

「このような取り組みが、いずれロータリーの伝統となることを期待しています（バートン氏）」

インドでのポリオフリー認定

2013-14年度のほかの大きな達成事項として、2014年2月に、インドでの野生ポリオウイルスによるポリオの無感染期間が3年間を経過したことが挙げられます。

この達成を祝う行事が催され、インドの全国テレビで大々的に取り上げられました。この行事には、バートン氏のほか、Pranab Mukherjeeインド大統領、Manmohan Singh首相、Ghulam Nabi Azad保健大臣、マーガレット・チャンWHO事務局長が同席しました。

この行事で起きた小さな出来事が、バートン氏の記憶に強く残っています。Mukherjee大統領がステージから去る際に、バートン氏に歩み寄って、この快挙を力強く後押ししてくれたロータリーに心からの感謝の気持ちを伝えたそうです。

「この出来事は、インド国内での、ロータリーとその活動に対する高い評価を示すものだったと思います。ロータリーの会員として、私は心から誇りに感じました」

シドニー国際大会：新世代への期待とロータリアンへの感謝の気持ちを込めて

R I会長にとって、国際大会はまさに年度のフィナーレとなる一大行事です。

「これ以上望むものはないというほど、シドニー国際大会は素晴らしいものでした。講演者の方々から、熱意と、重要で力強いメッセージを頂きました。また、とても素晴らしい講演だったのご感想を、多くの方から頂きました」

新世代とロータリーの未来にスポットを当てた、大会最終日の講演は特に印象的だったとバートン会長。

「ロータリーが前進するための大きな力、それは、ロータリーの青少年プログラムの参加者たちです。未来を担う人たちの講演から、大切なメッセージを受け取ることができました」

バートン会長は、大会最後の講演で、年度を通じて精力的に活動してくれたロータリアンに対し、心からの感謝の気持ちを述べました。

「(年度終了を前に) 嬉しくもあり、さみしくもある気がします。私は、ロータリーがいかに素晴らしい団体であるかを理解できました。これはひとえに、会場の皆さんのおかげです」

会長任期を終え、故郷オクラホマへ

「家族と一緒に時間を過ごして、プールでくつろぎたい」とバートン氏。ロータリーのあらゆるリーダーとしての役割を担い、R I会長としての任務を終えた今、バートン氏の心には、ある一つの気持ちが宿っています。

「これで私は、“一人のロータリアン”に戻ります。これが何より重要な役割です」

ロータリー・ニュース

次回《8月1日》の卓話予定

テーマ「我が野球人生～球道即人道～」

元横浜ベイスターズ投手・現 野球解説者 野村 弘樹 様

(紹介者 佐藤 勝彦 会員)